

- (54) SUSTAINED RELEASE ROOM INSIDE AROMA CHEMICAL  
(11) JP-A-55-81655  
(43) Publication Date: June 19, 1980  
(19) JP  
(21) Appln. No. 53-155498  
(22) Filing Date: December 15, 1978  
(71) Applicant: KUREHA KAGAKU KOGYO KABUSHIKI KAISHA  
(72) Inventor: KAWAKAMI, Shinmei

[Claim 1]

A sustained release room inside aroma chemical comprising an aqueous solution of a water-soluble polymer comprising aroma materials having a viscosity of 500-30000 centipoise.

[Claim 2]

The sustained release room inside aroma chemical according to claim 1, wherein said water-soluble polymer is xanthan gum.

## ⑫ 公開特許公報 (A)

昭55—81655

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>

A 61 L 9/04

A 61 K 7/46

識別記号

庁内整理番号

7043—4C

6755—4C

④ 公開 昭和55年(1980)6月19日

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 2 頁)

## ⑭ 徐放性室内芳香剤

① 特 願 昭53—155498

② 出 願 昭53(1978)12月15日

⑦ 発 明 者 坂内信男

いわき市錦町釈迦堂33

⑧ 発 明 者 川上進盟

いわき市植田町根小屋25—13

⑨ 出 願 人 呉羽化学工業株式会社

東京都中央区日本橋堀留町1丁目8番地

⑩ 代 理 人 弁理士 宮田広豊 外1名

## 明 細 書

1. 発明の名称 徐放性室内芳香剤

2. 特許請求の範囲

(1) 粘度500～30000センチポイズを有する芳香物質含有水溶性高分子水溶液から成ることを特徴とする徐放性室内芳香剤。

(2) 水溶性高分子がザンサンガムである、特許請求の範囲第(1)項記載の徐放性室内芳香剤。

(3) 水溶液が界面活性剤を含有する、特許請求の範囲第(1)項記載の徐放性室内芳香剤。

3. 発明の詳細な説明

本発明は室内芳香剤に関し、詳しくは粘度500～30000センチポイズの水溶性高分子水溶液に芳香物質を分散させてなる徐放性室内芳香剤である。

従来、室内芳香剤として一般に供されるのは、大別してパラジクロルベンゼンを主体とする球型の防臭剤、ソリッドタイプ芳香剤、エアゾルタ

イプ(スプレータイプ)芳香剤の3種がある。

このうちいわゆる芳香剤として広く使用されているのは、芳香物質をスポンジ状物質に含浸させて、開放状態で放置するソリッド型と、芳香物質を揮発物質と共に容器に密封し、使用時に少量づつ噴霧するスプレー型がある。しかし、ソリッド型芳香剤は、開放直後は十分な芳香を発するが、その後急速に減衰し、一週間位で殆んど実用的な効果が期待できなくなる。これは表面付近の芳香物質のみが揮散し、内部に包蔵されている芳香物質が表面に移行しないため、有効に利用されないことによるものと考えられる。またスプレー型は芳香物質は有効に利用されるが、高価であること、および使用する時は必ず人為的にバルブを開いて芳香物質を放出せねばならない等の欠点を有している。

本発明者等は、従来の室内芳香剤にみられるこれらの欠点を解消するべく検討した結果、本

発明に到達したものである。即ち、本発明は、一定範囲の適度の粘性を有する水溶性高分子水溶液に、芳香物質を分散または溶解させたものであり、これを適当な容器に入れ、開放状態で使用する。使用開始後、芳香は徐々に減衰して行くが、効果が少なくなれば、容器を振盪または芳香剤を攪拌することにより、再び強い芳香を発するようになる。これを何回も繰り返すことが可能であり、従来の芳香剤に比し、遙く程長期間使用が可能である。以下本発明について詳しく述べる。

本発明の芳香剤は、500～30000センチボイズ（B型粘度計・室温）、好ましくは1000～20000センチボイズの粘度を有することを特徴とする。芳香物質を分散液又は溶液形態にする場合あまり低粘度では、芳香物質が表面附近に浮上して芳香の持続性が期待できず、逆にあまり粘度が高すぎると、振盪また

- 3 -

一回の振盪または攪拌で、少なくとも20日間是有効な芳香を発し、多数回に亘り、表面層の交替を行なわしめることができ、在来品の芳香剤に比し極めて長期間に亘つて使用できる利点がある。

#### 実施例 1

水100gに、芳香物質（BOUQUET H-H-1408、高砂香料社製）10gおよび界面活性剤（ポリオキシエチレンノニルフェニルエーテル）0.2gを分散させ、これにザンサンガム1.5gを溶解させると、粘度7000センチボイズの芳香剤が得られる。これを開口面20cm<sup>2</sup>の容器に入れ、室内芳香剤として使用した。20日に1回づつ、この容器を振盪し、表面層の交替を行なわせ、200日使用後も尚充分な芳香を保持した。

一方、市販のソリッド型芳香剤は、使用指示書に従つて放置した結果、2週間で殆んど芳香を

は攪拌したときに、表面層の移動変更が円滑に行なわれ難くなる。即ち、液中の芳香物質の揮発をある程度抑制しつつ、表面層の交替を円滑に行なわしめ、芳香の持続性を維持するには、その粘度を500～30000センチボイズの範囲に調整することが必要である。

本発明で用いる水溶性高分子物質としては、例えば、ポリビニルアルコール、カルボキシメチルセルローズ、メトキシセルローズ、アルギン酸ソーダ等が用いられるが、微生物生産多糖類であるザンサンガムは、少量で高粘度を与えることおよびチキソトロピック性が大きいことで特に好ましい。また、芳香物質としては、油溶性のもの、水溶性のものいずれも用いることができ、1～20重量%添加される。油溶性の芳香物質を使用するときは、界面活性剤を添加し、均一に分散させることが好ましい。

本発明による芳香剤は、極めて徐放性であり、

- 4 -

感じなくなつた。

#### 実施例 2

水100gに、芳香物質（Berdec-22、長谷川香料製）10gを分散させ、これにザンサンガム1.5gを攪拌しながら徐々に溶解せしめると、粘度9500センチボイズの芳香剤が得られた。

これを開口面積20cm<sup>2</sup>の容器に入れ、室内芳香剤として使用した。20日に1回づつこの容器を振盪し、表面層の交替を行わせ、200日使用後も尚充分な芳香を保持した。

出願人 (110) 条科化学工業株式会社  
代理人 宮田 広 登  
代理人 川口 義 雄